

鍼灸治療の学理研究 第6報

鼻出血に対する鍼灸技術の研究

東京都 清野鍼灸整骨院

○ 山田昌紀 大貫綾子 村田朝子 中村幸雄

清野充典

明治国際医療大学 伝統鍼灸学教室

和辻直

【緒言】

日本の鍼灸治療は、患者の病態に応じて手技手法を選択することにより、多種の病気を治療してきた医療である。当院では、特定の病態に対し、有効な技法と無効な技法があることに着眼し、誰もが同様の手技を用いた際に、有効でかつ再現性のある技法の確立を検討している。

【方法】

対象：鼻出血を出現し、容易に止血できない者
7名（男性2名、女性5名）であった。

方法（施術手順）：

- ①座位にて対象者の頸部を軽く屈曲させ、僧帽筋の緊張を緩めた。
- ②風府穴に鍼(ステンレス製30mm20号鍼)にて25～30mm刺入した。
- ③刺入後に雀啄術を行ない、風府穴周辺に鍼響を約10秒与えた後、5分間置鍼した。

【施術状況1】

姿勢

刺鍼の位置(風池)

雀啄術



【施術状況2】

置鍼



【結果】

置鍼後、鼻出血を確認したところ、全ての対象者に止血が認められた。抜鍼した後も再出血しなかった。

【考察1】

鼻出血が主訴で鍼灸院に来院することは皆無であり、各種の運動競技場や偶発的に遭遇することが殆どである。急を要する機会が多いため、鍼灸治療の対応では低周波置鍼療法や灸頭鍼を用いる環境になく、道具を用意している時間が無いことが多い。そのため、毫鍼で手技を用いて対応せざるを得ないことが多い。

【考察2】

風府穴に対する刺鍼が人体にどのような影響を及ぼしているのか確認できていない。

鍼響を与えているだけで鼻出血が軽減することは臨床上幾度も経験するが、その時点で抜鍼すると再び出血が起きる。

頭髪があるため、お灸は適しない。

【考察3】

風府穴(別名:鬼穴、鬼林、舌本、曹谿、惺惺、髓空)の主治症の記載

『銅人腧穴針灸図経』:頭痛、頸項急不得回顧、目眩鼻衄咽喉痛、狂走目妄視

『黄帝明堂灸経』 :頭痛、項急不得回顧、暴瘡不得言、多悲恐驚悸、
狂走欲自殺、目反視

『針灸聚英』 :中風、舌緩不語、振寒汗出身重、惡寒頭痛、
項急不得回顧、咽喉腫痛、偏風半身不遂、鼻衄、
傷寒狂走欲自殺、目妄視、頭中百病、馬黃黃疸

『針灸学講義』 :癲狂、頭痛項強、目眩、鼻衄、咽喉腫痛、舌緩不語、失音、
黃疸、半身不遂

『針灸配穴』 :頭痛、項強、目眩、癲癩、精神病、鼻衄、咽喉腫痛、舌強

『針灸学』 :頸項強痛、四肢麻木、感冒、頭痛、中風、精神病

『中国針灸学概要』 :頭痛、項強、目眩、鼻衄、咽喉腫痛、中風不語、癲狂、
半身不遂

『医宗金鑑』 :中風舌緩不能言、頸項強急及瘖、頭風百病与傷寒

参考文献:図説東洋医学 経穴編 学研

【結語】

鼻出血に対して、風府穴に鍼を刺入し、雀啄術と置鍼術を用いることで有効で再出血しない効果を得られることが分かった。

鼻出血に対する鍼灸技術には、毫鍼による本手技手法が活用できると考え、今後は症例数を増やし、その有用性を検証してみたい。同様の症状が発現したときに応用できる手技手法であると考え。